



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2006. 2 月号

「写真とポスターで見る博物館 30 年」展

博物館は今年、開館 30 周年を迎えます。そこで、「開館 30 周年記念展」を開催します。今月は「第 1 期『写真とポスターで見る博物館 30 年』展 期間：2 月 11 日（土）～3 月 12 日（日）」です。博物館の 30 年間の活動を一気に振り返ってみます。

さて、ここでクイズです。この 30 年の間に、博物館が出版した冊子の総ページ数はどのくらいになるでしょうか？

- 1) 5000 ページぐらい 2) 10000 ページぐらい 3) 15000 ページ以上



左上) 初代投影機 右上) 現在の博物館 左下) サマーセミナー '82 右下) 全出版物

答えは 3) 15000 ページ以上です。30 年間に出版した冊子を積み上げて数えてみると、15000 ページを超えました。学校に通っているみなさんは教科書と比べてみてください。平塚市博物館が出版している冊子は、特別展の図録も含めて、平塚市とその周辺の地域について調査し、まとめたものがほとんどです。ということは、15000 ページ分もの「発見」があったということです。とても多くのことがわかりました。でも、同時に、わかったことはほんの一部だということもわかりました。平塚市にこんなにも未知の部分がある、それが一番の「発見」かもしれません。

天文展示新装オープン



屋上に設置された太陽望遠鏡のドーム



3階展示室に設置された大画面モニター

ご不便をおかけしてきましたが、11日から「星のひろば」の天文展示がオープンします。

主な展示内容は、

『太陽と太陽系の惑星たち』

二階～三階の踊り場壁面に設置される太陽と太陽系のパネル展示です。太陽の直径は5.5メートル。太陽パネルにはビデオプロジェクターで、太陽表面に現れる黒点などの映像も投映されます。

『太陽は今』

三階展示西側壁面には、屋上の太陽望遠鏡で撮像した太陽像、インターネットで接続した世界の天文台の太陽情報などが大画面モニターで表示されます。

平塚市博物館開館30周年記念・神奈川県博物館協会50周年記念

「天文現象30年」展

期間：2月1日（水）～2月26日（日）

場所：展示室1階寄贈品コーナー

平塚市博物館開館以来、30年間に平塚で見られたおもな天文現象を、当博物館のオリジナル写真でレビューします。日食、月食、星食、そして78年の周期で巡ってきたハレー彗星、数ヶ月の長きにわたり雄姿を見せたヘール・ボップ彗星、世間の話題をさらったしし座流星雨、さらに火星大接近、130年ぶりの金星太陽面通過など、盛りだくさんです。

また、今年度で50周年を経過した神奈川県博物館協会の活動と当館との関わりを、開館当時の協会資料などから紹介します。

ないないづくしでスタート

昭和46年7月1日、「博物館準備室」へ異動を命じられた。本庁4階、教育委員会の中である。ここでの執務はそう長くなく、図書館の休憩室を事務室に代えて使用した。ガラス張りとはいえ薄暗く老眼鏡(時45歳)を用いなければ字も定かでなかった。このような状況で「博物館に何を望むか」などをテーマに市立幼・小・中学校教頭・主任を対象に研修会を開いたりしたが、あまり得るものはなかった。何かヒントになるものはないかを模索していた時代であった。ご案内のように、昭和46年は石油ショックで工事費が値上がりしていた時代である。市民センターの建設時もそうであったが、なぜこういつもいつもぶつかるのか運のなさに悔やんだりした。博物館の展示をどうするかを考えもまとまらないのにカネが幾らかかるかを出さなければならない。

どうみせるか「展示の手法」も連日連夜口角泡を飛ばして激論が続いた。行く着くところがない状況の毎日が続いた。昭和46年6月19日に「博物館建設準備室年次計画案(本体工事は昭和48年9月に完成、開館49年4月など)」が作成されていたが、本体工事は48年は直ぐに来てしまった。まだまだ予定地は野ッパラである。市建築課から「カネが足りない。暖冷房装置を止めに出来ないか」と相談があった。当時室長であった島崎室長が「とんでもない。中にいる者を考えていないのか、入り口の化粧壁を止めにしたらどうか」と逆襲した。全体の面積を狭めていたときであり、全員が面白く思っていないこともあって、島崎室長の語気は荒かった。

その島崎室長はオープン前に倒れてしまい、帰らぬ人となった。相当に無理を強いた結果とも思い、慙愧に耐えない。この「島」と言う字には因縁めいたものがあつた。岩嶋、小島と続けて二人を喪っていく。死因は別で探ることもないが、やはり気になる。

着工までの3年間、野ッパラの敷地は駐車場化した。杭を打ち、バラ線を張ったが、それでも空けて入ってくる。また塞ぐの繰り返しであった。当時の私の車はブルーボードの中古車であった。結構いかれていて袖の一部にガムテープが貼ってあつた。「山本さんはあの車を博物館に持って行くのかなァ」と揶揄する声が聞こえてきた。

着任した46年度の予算で消耗品費がないのに驚いた。フィルムを買い、電池を買っているのに、どうしたことか、どうも自腹で調達していたようだ。どういう予算の配分方法だったのか。要求しなかったのか。準備室段階の作業には得てしてこういうことがある。事務職が居なかったことにもよるが、私が行ってからの遣り繰りが大変だった。ともかく、無い無いづくしの発掘をやり、資料を集めなければならなかつた。集めた資料の置き場も探さなければならない大変な時期であった。

幸いなことに良い学芸員が集まった。寄せ集めといえそうだが、それぞれが自分の分野を展示で見せなければならないという切羽詰まった状況に置かれていた所為かもしれない。その人々も定年を迎える。よくここまで頑張ってくれた。専攻学生の教育実習の場になるなど全国的に指折りの施設になり、なお前進している姿を見て本当に嬉しく思う。(元副館長 山本 弘)



展示工事進捗状況の検査風景。左端は初代館長菅間荘、その右側は前土井館長、右端は現浜口館長。



写真の杭は元山本副館長が打ったもので、「杭打ち名人」の声が仲間からあがっていました。

博物館カレンダー

2006年2月の行事

2	1	水	☆	寄贈品コーナー天文現象 30年(～/28)	展示室
2	2	木	○	展示解説ボランティアの会	特研究室
2	3	金		古文書講読会	講堂
2	4	土	◎	漂着物を拾う会 天体観察会「カノーパス」	虹ヶ浜 平塚海岸
2	5	日		古代遺跡を探す会 地質調査会	野外 科学室
2	9	木		石仏を調べる会	特研究室
2	10	金		古文書講読会	講堂
2	11	土	☆	春期特別展「開館30周年展1期」(～2)	特展室
			☆	天文展示リニューアルオープン	星の広場
			☆	プラネタリウム「南半球の星空」(～4/9)	プラネ室
2	12	日	◎	水辺の楽校生きもの調べの会 ☆ 春のミニ文化祭「藤沢市川名緑地の自然」	水辺の楽校 情報コーナ ー
2	15	水		裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研究室
2	16	木	○	展示解説ボランティアの会	特研究室
2	17	金		古文書講読会	講堂
2	18	土		星まつりを調べる会 ○ 自然の新聞を作る会	野外 野外
2	19	日	◎	相模川の生き立ちを探る会 ろばたばなし	科学室 展示室
2	23	木		石仏を調べる会	特研究室
2	24	金		古文書講読会	講堂
2	25	土		地質調査会 空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ 天体観察会	屋外 特研究室 特研究室 屋外
2	26	日		民俗探訪会	講堂

2006年3月の行事

3	2	木	○	展示解説ボランティアの会 ☆ 寄贈品コーナー「鳥の世界」(～3/30)	特研究室 展示室
3	3	金		古文書講読会	講堂
3	4	日	○	体験学習「竹細工・花かご作り」 星まつりを調べる会 天体観察会	講堂 科学室 特研究室
3	5	日		古代遺跡を探す会 地質調査会	野外 科学室
3	9	木		石仏を調べる会	特研究室
3	10	金		古文書講読会	講堂
3	11	土	◎	漂着物を拾う会 地質調査会 星まつりを調べる会 ○ 星を見る会「月と土星」 天体観察会「まとめ・春の星座」	虹ヶ浜 野外 特研究室 屋上・科学室 屋上・科学室
3	12	日	◎	水辺の楽校生きもの調べの会 民俗探訪会 ☆ 春のミニ文化祭「雑木林の現状と今後について」	水辺の楽校 講堂 2階情報コー ナー
3	15	水		裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研究室
3	16	木	○	展示解説ボランティアの会	特研究室
3	17	金		古文書講読会	講堂
3	18	土	◎	博物館まつり(～4/2)	特展室
3	19	日	◎	相模川の生き立ちを探る会 ろばたばなし	野外 展示室
3	23	木		石仏を調べる会	特研究室
3	24	金		古文書講読会	講堂
3	25	土		空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	講堂 講堂
3	26	日	◎	プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ

☆: 展示(無料)、プラネタリウム(観覧料)、○: 申込制、◎: 自由参加、無印: 年間会員制

☆プラネタリウム

◎「アクアマリンと行く～南半球の星空～」

平塚では見られない南半球の星々を、星をテーマに歌い続ける地元出身音楽ユニット「アクアマリン」の旅行体験記とともに紹介します。

投影日: 2月11日～4月9日の土・日の午前11時と午後2時

観覧料: 100円(中学生以下無料)

◎「2月の天文現象」

毎月第一土曜日午後、当月の天文現象を紹介・解説します。

投影日: 2月4日(土)午後2時

観覧料: 100円(中学生以下無料)

<参加者募集>

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。

日時: 2月4日(土)午前9時30分～11時

場所: 平塚虹ヶ浜海岸

参加: 自由(初めての方は往復はがきで申し込むこと)

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時: 2月19日(日)(1)午後1時20分～(2)午後3時～

場所: 展示室民家

◎自然の新聞を作る会

動植物の観察をして自然の新聞にまとめる

日時: 2月18日(土)午後1時～午後4時

場所: 寒川取水堰周辺

申込: 2月10日までに往復はがきで

◎プラネタリウムで宇宙を学ぶ会

テーマ: 「太陽」

日時: 2月26日(日)午後3時30分～4時30分

場所: 博物館プラネタリウム室

参加: 自由・無料

◎体験学習「竹細工・花かごを作ろう」

日時: 3月4日(土)午前9時～12時

場所: 博物館講堂

材料代: 100円

定員: 15名(多数の場合は抽選)

申込: 2月20日までに往復葉書で。

春のミニ文化祭について

川名里山レンジャー隊(日大生物資源学部)による「藤沢市川名緑地の自然」の展示が行われます。

期間: 2月12日～2月28日

場所: 2階情報コーナー

あなたと博物館 31巻11号 通算350号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail: muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/